SecureDoc for Windows

Version 9.2

スタンドアロン版
クイックインストールガイド

WinMagic SecureDoc

2025 年 8 月

本ガイドの目的

本ガイドは、WinMagic SecureDoc スタンドアロン版のインストール及びディスクの暗号化方法について説明します。インストーラーを実行すると、「キーマネージャー」と「SecureDoc コントロールセンター」がインストールされます。SecureDoc インストール後の各設定項目などについては「SecureDoc for Windows Version 9.2 リファレンスマニュアル」をご参照ください。 使用頻度の低い機能については割愛しておりますので、予めご了承ください。

ご注意

SecureDoc for Windows Veriosn 9.2
スタンドアロン版 クイックインストールガイド

連絡先

WinMagic Inc. （カナダ本社）

200 Matheson Blvd West, Suite 201
Mississauga, Ontario, L5R 3L7
フリーダイヤル： 1-888-879-5879　電話：(905) 502-7000　Fax：(905) 502-7001
テクニカルサポート：support@winmagic.com

ウィンマジック・ジャパン株式会社

〒105-0022 東京都港区海岸 1-2-3　汐留芝離宮ビルディング 21 階
電話：03-5403-6950　Fax：03-5403-6953
営業：sales.jp@winmagic.com　　テクニカルサポート： support.jp@winmagic.com
URL：https://www.winmagic.co.jp/　　https://winmagic.com/ja/home-jp/　(グローバル)

目 次

1. インストール実行前の注意事項 3
2. 制限事項 3
3. SECUREDOC のインストール 4
4. 暗号化の実施 7
5. ユーザーの追加方法 15

1. インストール実行前の注意事項

以下の内容を確認してから、実行してください。

- ☐ リカバリメディアを作成するために、リムーバブルメディア（USB メモリ）をご用意ください。
  サイズは小さいので、大容量のメディアは不要です。
- ☐ BitLocker の設定が無効になっていること
  BitLocker が有効になっていると、インストールできません。
- ☐ TCG Opal（自己暗号化）ディスクの場合、「HDD パスワード」あるいは「Block SID」を設定していないこと
  UEFI/BIOS で、HDD パスワードあるいは Block SID が設定されていると、ディスクを Opal としてアクティベートできません。SecureDoc のブートログオンプログラム（プリブート認証）をインストールすることができず、SecureDoc のインストールは失敗します。「Block SID」の設定解除方法について不明な場合は、PC メーカーにお問い合わせください。
- ☐ PC の時計を正確にあわせてください。
  SecureDoc インストール後、日付と時刻の変更操作は、不正な行為として扱われ、キーファイルはロックされます。（海外との時差は考慮されています）
- ☐ 使用中の PC のディスクを暗号化する場合、SecureDoc のインストール前にデータをバックアップし、ディスクのエラーチェックを実施して、エラーがないことを確認してください。
- ☐ スリープ、休止の設定について 暗号化中、電源管理によって PC（HDD/SSD）が停止しないようにしてください。
  SecureDoc インストール後もスリープは推奨されません。スリープ時、鍵はメモリ上にロードされたままです。
- ☐ インストールする PC のディスク空き容量の確認 10% 程度の空き容量があること
  空き容量が不足していると暗号化を継続できない場合や失敗する場合があります。

2. 制限事項

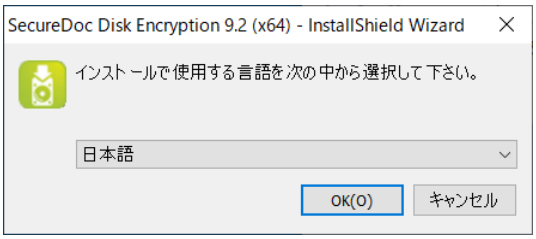
- ☐ ID/パスワードには、円マーク と バックスラッシュ を利用できません。
- ☐ ブートログオンを使ったプリブート認証で、円マーク と バックスラッシュ は入力できません。
- ☐ UEFI デバイスの場合は、_（アンダーバー）もご利用になれません。
- ☐ SecureDoc をインストール後、UEFI / BIOS の日付と時刻は、正しく保つようにしてください。
  通常、UEFI / BIOS の日付と時刻は、Windows の設定と同期していますが、デバイスの時刻設定（UEFI/BIOS）が時差を超えて変更された場合、不正な行為としてみなされ、キーファイルをロックします。海外渡航を考慮しており、大幅に時刻設定を変更しなければ、ロックされることはありません。

3. SecureDoc のインストール

① 「SecureDoc_x64_9.2_**.exe」を Windows の管理者権限で実行してください。

（ファイル名は、バージョン（サービスリリース SR1 等）により異なります。）

ユーザーアカウント制御の機能で、「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」と表示された場合、 <はい> をクリックし進めてください。インストールする言語を確認し、<OK> をクリックします。

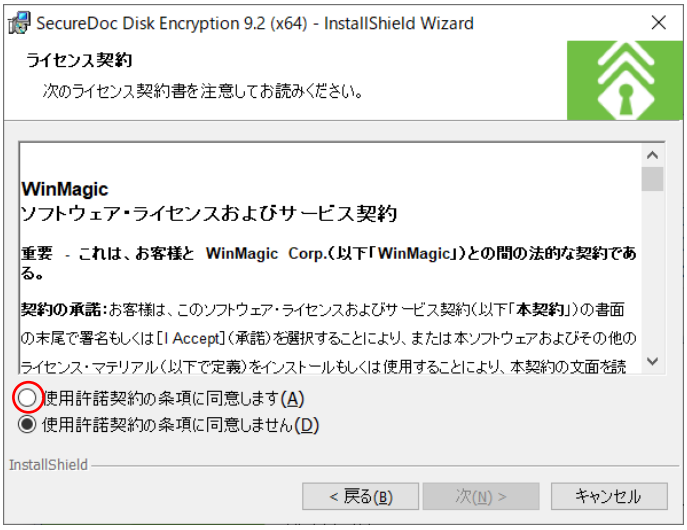


② インストールウィザードが起動します。開始するには<次> をクリックします。

③ 「ライセンス契約」画面で、使用条件を確認します。

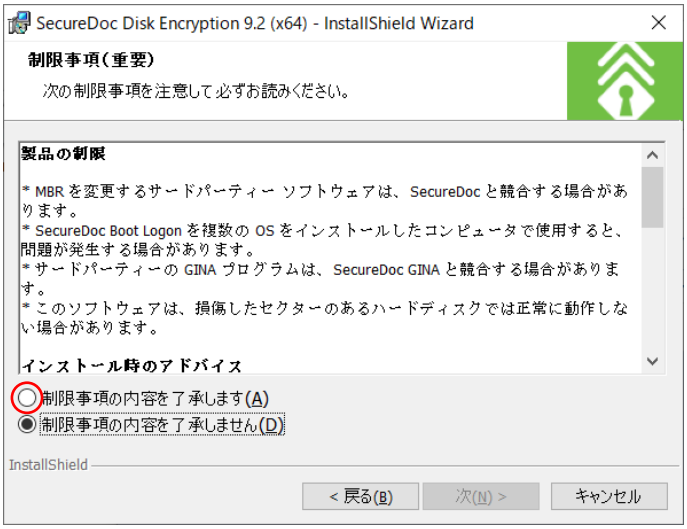
インストールを続行するには、ライセンス契約に同意する必要があります。

続行する場合は、「使用許諾契約条項に同意します」を選択して「次」をクリックします。

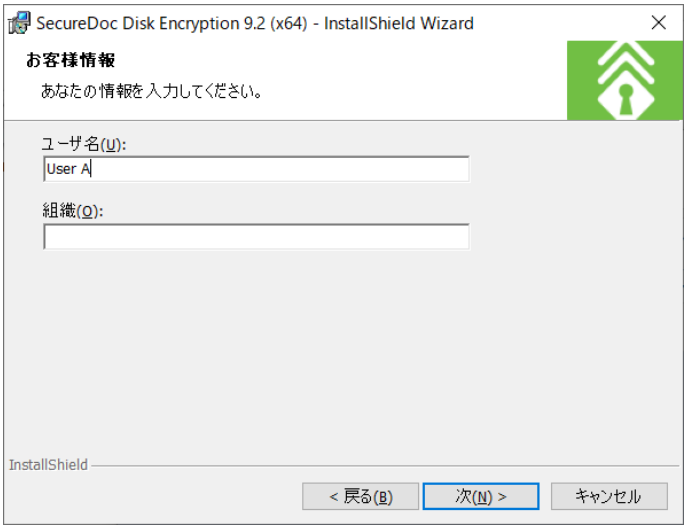


④　「制限事項（重要）」画面で、制限事項を確認します。

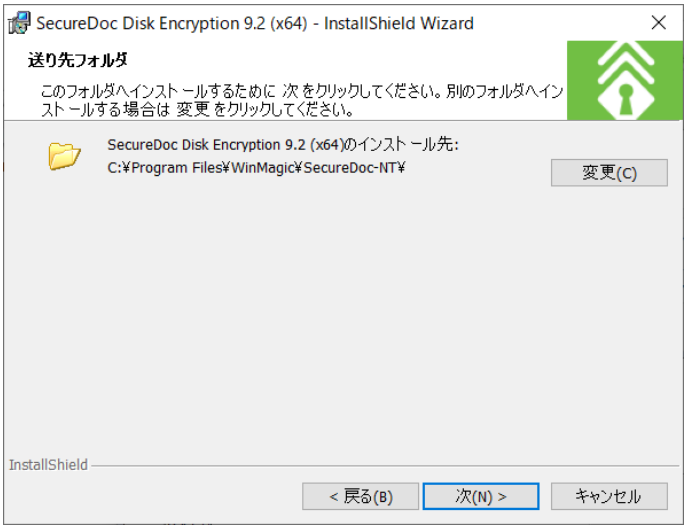
インストールを続行するには、「制限事項の内容を了承します」を選択して、<次> をクリックします。



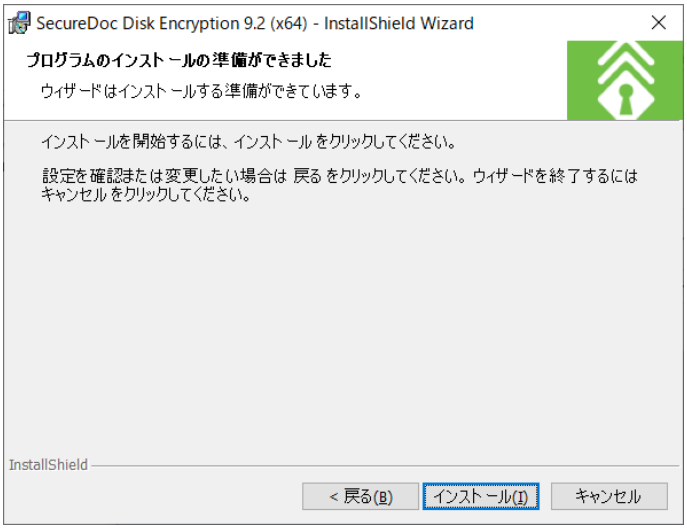
⑤　必要な情報を「お客様情報」画面で入力し、<次> をクリックして操作を続行します。



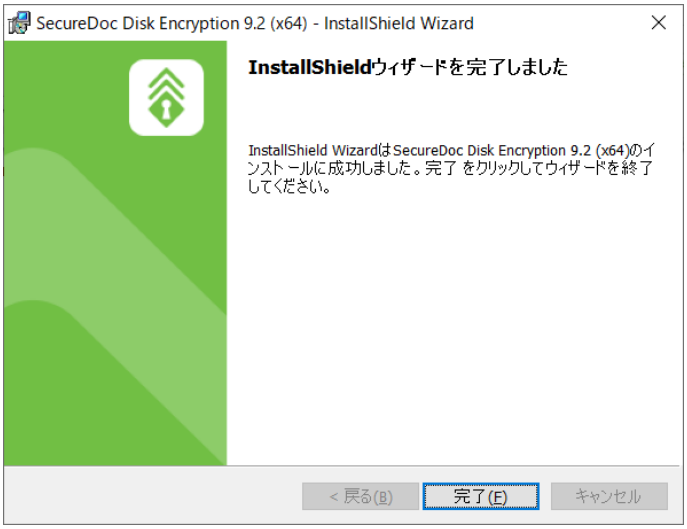
⑥　「送り先フォルダ」画面で、インストールするフォルダを指定します。 変更する場合は、<変更> をクリックしてフォルダを指定します。ほとんどのインストールでは、デフォルト値が適し ています。インストールを続行するには、<次> をクリックしてください。



⑦　ここまでで、インストールの準備ができました。続行するには、<インストール> をクリックします。



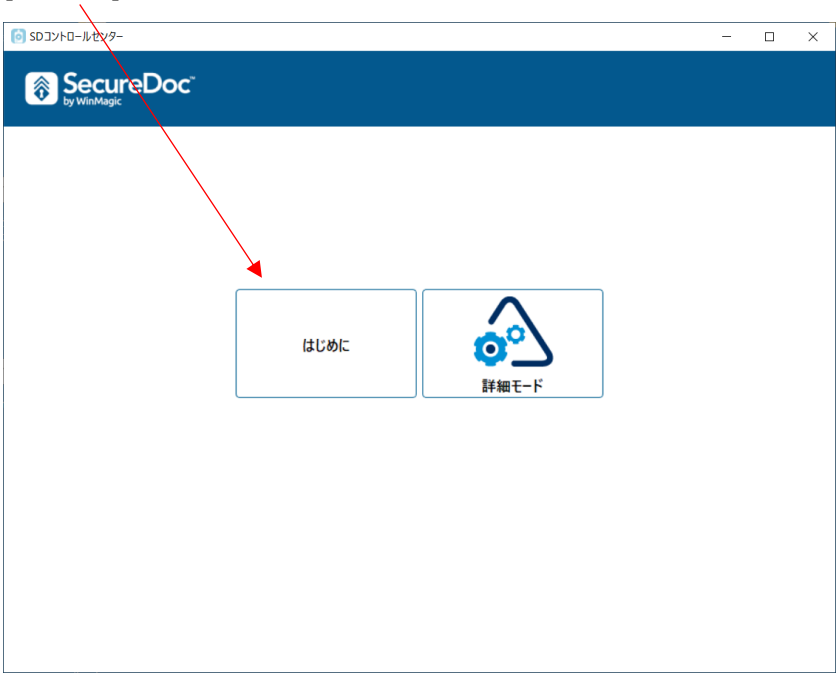
⑧　インストールに成功すると、「InstallShield ウィザードを完了しました」画面が表示されます。＜完了＞ をクリックします。



4. 暗号化の実施

① [スタート] > [SecureDoc ディスク暗号化] > [SecureDoc コントロールセンター] を実行します。

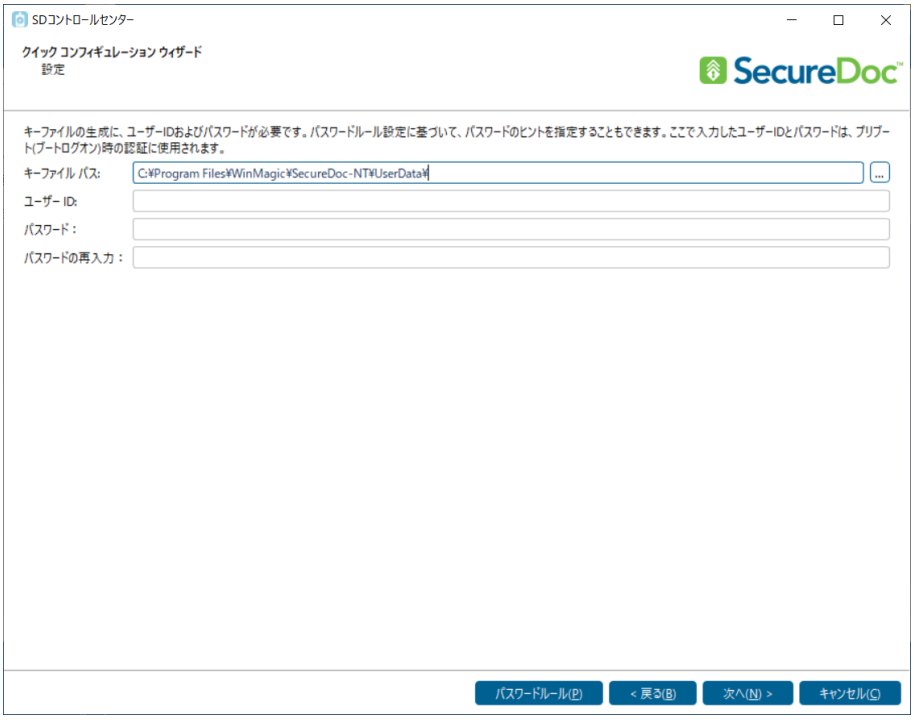
② [はじめに] をクリックします。



③ 「タスクのダッシュボード」画面から、[クイックウィザード] をクリックします。

④　「クイックコンフィギュレーションウィザード」の開始画面が表示されるので、 <次へ> をクリックします。

⑤　設定画面が表示されます。



「キーファイルパス：」のフィールドで、キーファイル名と保存先を指定します。

初期設定の保存先フォルダ：C:¥Program Files¥WinMagic¥SecureDoc-NT¥UserData¥ 拡張子 .dbk をつけて、入力してください。

例）　C:¥Program Files¥WinMagic¥SecureDoc-NT¥UserData¥tanaka.dbk

キーファイル入力後、「ユーザーID:」に移動すると、キーファイル名がユーザーID として、自動で入力されます。

パスワードルールに従い、「パスワード:」、「パスワードの再入力：」のフィールドで、パスワードを入力します。

パスワードのルールは、<パスワードルール> をクリックして設定します。

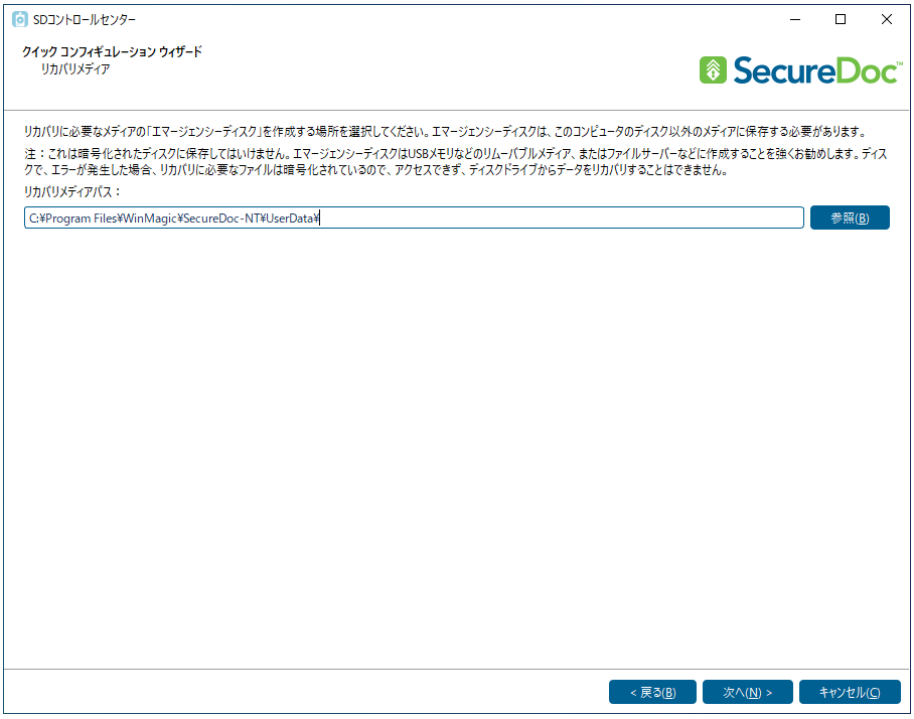
パスワードルール

項　目	説　明
最小文字数：	
X 文字	パスワードの最低文字数を指定します。 デフォルトで「8」が設定されています。
X　大文字	パスワードに含める大文字の最低文字数を指定します。
X　小文字	パスワードに含める小文字の最低文字数を指定します。
X　数字	パスワードに含める数字の最低文字数を指定します。
X 英数字以外の文字	パスワードに含める記号の最低文字数を指定します。
最大文字数：	
X　パスワードの連続文字	パスワードに含めることができる同一文字の連続の最大数を指定します。0 を設定した場合、文字の連続使用を何回でも許可します。たとえば、「passssword」 も使用できます。1 を設定した場合、文字の連続使用を一切許可しないことを意味します。たとえば、「password」は使用できません。2 を設定した場合、文字の連続使用を 2 回まで許可します。
X 前回のパスワードの連続文字	古いパスワードと新しいパスワードの間で共通して使用できる連続文字の最大数を指定します。たとえば、連続文字の最大数を 2 に指定し、古いパスワードが「PASSWORD」だった場合、新しいパスワードとして「WORLDMAP」は使用できません。これは、3 つの連続文字（「WOR」）が古いパスワードと新しいパスワードで共通しているためです。ただし、「WoRLDMAP」は「o」が小文字になっているため、使用できます。

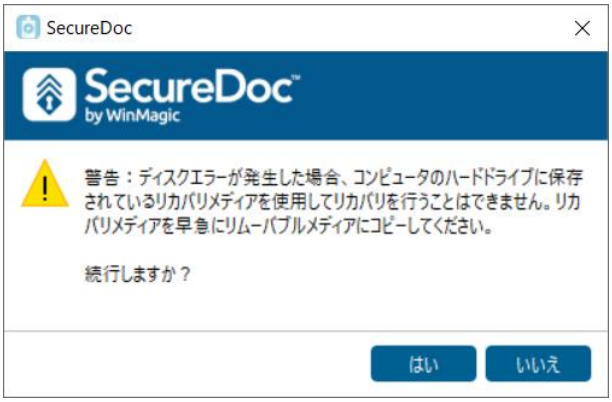
項　目	説　明
全般オプション	
パスワードの最低保持期間	パスワードが保持される最低日数を指定します。
パスワードの有効期間	パスワードの有効期限を X に指定します。
警告機関　X 日前から	何日前から警告メッセージを表示させるかを指定します。
☐ パスワードの失効を実施	チェックすると、パスワードの有効期限が切れると、キーファイルも有効期限切れになり、ユーザーはログインができなくなります。チェックしないと、パスワードの有効期限が切れても、ログインは可能です。ただし、新しいパスワードの入力を常に求められます。
パスワードのリカバリオプション：	
☐ パスワードのヒントを無効にする	チェックをするとパスワードヒントが無効になります。 パスワードヒントの利用は推奨されません。
セルフヘルプ パスワードのリカバリのために、ユーザーが答える必要がある最小質問数	セルフヘルプパスワードリカバリーを利用する場合に、ユーザーが答える質問数の最小値を指定します。 （注）セルフヘルプパスワードリカバリーは、日本語は使えません。
すべての自動パスワードのリカバリ用の答えの合計長は最低、次の通りです	セルフヘルプパスワードリカバリーを利用する場合に、ユーザーが入力する質問の答えの合計文字数の最小値を指定します。
その他のオプション：	
キーファイル履歴に保存されるパスワードの最大数	パスワードの世代管理をおこないます。例えば 5 と設定すると、過去 5 世代の内に設定したパスワードを再利用することはできません。
トークンベースのキーファイルのパスワードがリカバリされてから、パスワード の有効期限が切れるまでの日数	トークンを利用しているユーザーがパスワードリカバリーをおこなった場合、指定の日数だけパスワードだけでログインできるようになります。0 にすると、トークンがなければ、都度パスワードリカバリーをおこなう必要があります。

⑥ SecureDoc インストール後、万一、起動に問題が発生した場合に備え、エマージェンシーディスク（リカバリメディア）を作成します。 <参照> をクリックして作成先を指定します。

注 作成先は、これから暗号化するローカルディスクではなく、必ず USB メモリなどを選択してください。
万一、起動できない状態になった場合、ローカルディスク内に作成したエマージェンシーディスクにはアクセスきません。<次へ> をクリックします。

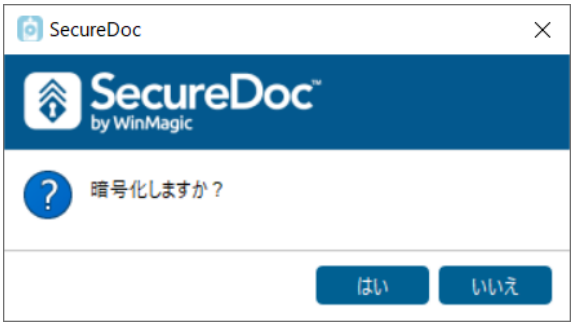


⑦ リカバリメディアの作成先を外部に指定しなかった場合、警告メッセージが表示されます。
リカバリメディアをローカルに作成する場合は、<いいえ> をクリックして、前の設定画面に戻ります。
そのまま続行する場合は、<はい> をクリックします。<はい> をクリックした場合、リカバリメディアをリムーバブルメディアにコピーすることを忘れないようにしてください。

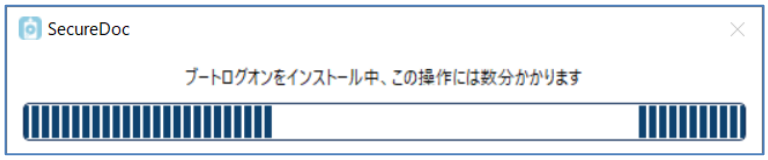


⑧ <完了> をクリックします。

⑨ 暗号化を開始する確認画面が表示されるので、<はい> をクリックします。



⑩ ブートログオンプログラムのインストールが開始されます。



⑪ 再起動を要求されますので、 <OK> をクリックします。

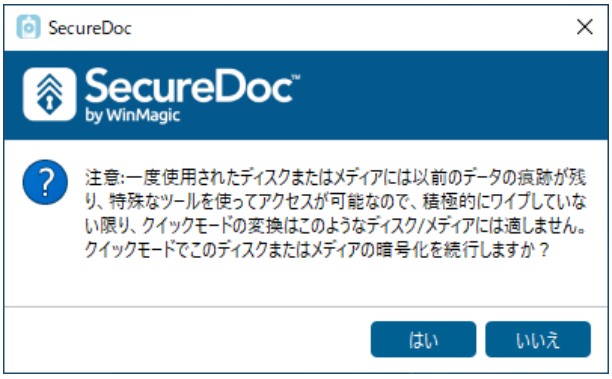
注 USB メモリ等のリムーバブルメディアや外部ストレージが取り付けられている場合は、意図しない暗号化を防止するために外してください。

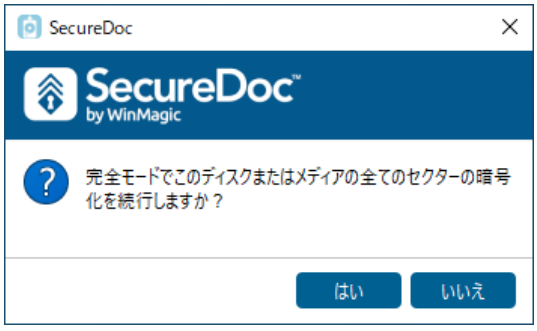
TCG Opal ディスクで、Opal としてアクティベートされた場合は、シャットダウンとなります。

⑫　ブートログオンプログラムインストール後、再起動あるいは電源を投入すると、プリブート認証画面が表示されます。パスワードを入力して、エンターキーを押すか、あるいは をクリックします。

注　キーボードレイアウトが「English(United States)」になっていますので、「Japanese」に変更してください。

⑬　暗号化の開始前に、暗号化の変換モードについて確認されます。





最初に「クイックモード（標準）モード」での暗号化実施について確認されます。

「クイックモード（標準）モード」は、使用しているセクタのみ暗号化し、暗号化完了後、暗号化されていないセクタ領域にデータが書き込まれると、都度、自動で暗号化されます。「クイックモード（標準）モード」を選択する場合は、<はい> をクリックします。

注　既にユーザーが使用しているデバイスの場合、ディスク内の復旧可能な削除データなどは暗号化されないため、「クイックモード（標準）モード」は推奨されません。「クイックモード（標準）モード」は、新規 PC で、まだユーザーが使用していないデバイスの暗号化に適しています。「クイックモード（標準）モード」を選択する場合 <はい> をクリックすると、暗号化が開始されます。

ここで、<いいえ> をクリックすると、画面が変わり「完全モード」での暗号化を選択できます。
「完全モード」は、ディスク全体を暗号化します。
<はい> をクリックすると暗号化が開始されます。ここで、<いいえ> を選択すると、暗号化処理は中止されます。
ここで暗号化を中止した場合、ディスクを暗号化するためには SecureDoc コントールセンターにログインして暗号化操作をおこなう必要があります。

⑭　暗号化が開始されると、進行状況が表示されます。

暗号化完了前にデバイスをシャットダウンした場合、再起動後、暗号化は自動で再開されます。
暗号化を途中で停止したい場合は、<一時停止> をクリックします。一時停止した場合、<再開> をクリックすると、暗号化が再開されます。

5. ユーザーの追加方法

SecueDoc は、デバイスに複数のユーザーID を登録することができます。インストール時に作成したユーザーID には、全ての権限（管理者権限）を付与されています。

ユーザーを追加する場合、権限を個別に設定することができます。

① [スタート] > [SecureDoc ディスク暗号化] > [SecureDoc コントールセンター] を実行し、ログインします。

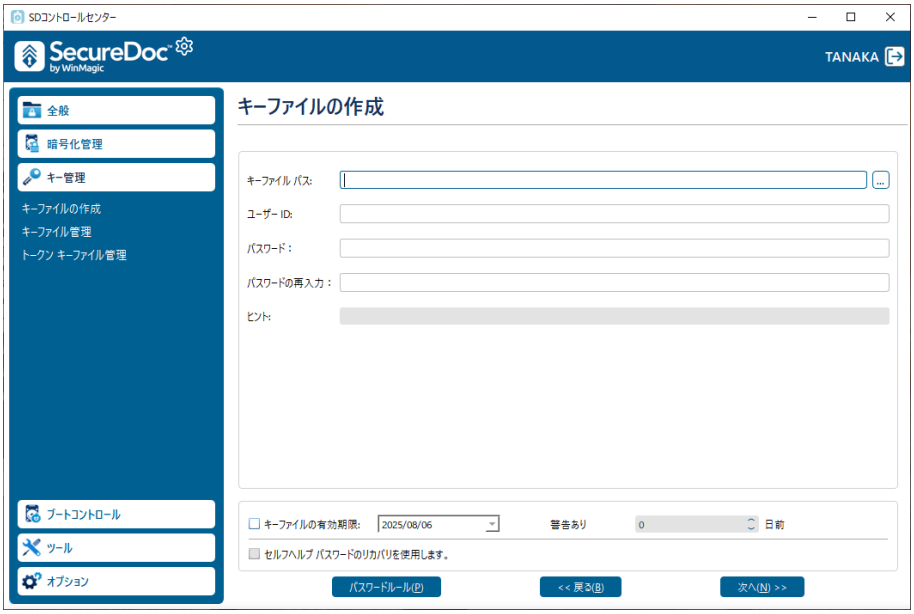
② [キー管理] のプルダウンメニューから [キーファイルの作成] を選択します。

パスワードで認証する方法と、トークンを使って認証する方法を選択できます。ここでは、パスワードで認証するキーファイルの作成方法を説明します。

パスワードルールを設定するには、<パスワードルール> をクリックします。

[◎パスワードベース] を選び、 <次へ> をクリックします。

③　キーファイルの作成画面が表示されます。



[キーファイル パス:] のフィールドで、キーファイルを作成する場所とファイル名を入力します。

例： C:¥SDUser¥endo.dbk

キーファイル入力後、「ユーザーID:」に移動すると、キーファイル名がユーザーID として、自動で入力されます。

パスワードルールに従い、「パスワード:」、「パスワードの再入力：」のフィールドに、設定するパスワードを入力します。

期限付きにする場合、「□キーファイルの有効期限：」で設定します。

<次へ> をクリックします。

④　権限を設定する画面が表示されます。

「ユーザー権限」のデフォルト設定は、「☑ パスワードの変更」のみです。一覧から、必要な権限を付与できます。

権限

設　定	説　明
キーファイル権限	
◎ ユーザー権限	デフォルト設定は、「☑ パスワードの変更」のみです。 詳細から、必要な権限を付与できます。
◎ 管理者権限	全ての権限を持ちます。
詳細	
☐ パスワードの変更	ユーザーは、パスワードを変更できます。
☐ プロファイルの変更	ユーザーは、プロファイルを変更できます。
☐ リムーバブルメディアの変換	ユーザーは、リムーバブルメディアを暗号化できます。
☐ キーの変更	ユーザーは、鍵を生成、削除、およびインポートできます。
☐ プロファイルの選択	ユーザーは、プロファイルを選択できます。
☐ ハードディスクの変換	ユーザーは、ディスクの暗号化/復号化をおこなえます。
☐ キーのエクスポートと表示	ユーザーは、鍵を操作できます。キーファイルのエクスポートや、鍵を他のキーファイルにエクスポートできます。
☐ ディスクのインテグリティチェック	ディスクの整合性チェックが失敗した場合でも、ユーザーは作業を続行できます。デバイスを検査し、ディスクの整合性のために新しい署名を再作成します。
☐ トランザクションログの閲覧	ユーザーは、Audit Log を見ることができます。
☐ エマージェンシーディスクの作成	ユーザーは、エマージェンシーディスクを作成できます。

権限を設定し、<次へ> をクリックします。

⑤　次の画面が表示されます。ディスクを暗号化した鍵をキーファイルに含める必要があるので、<インポート> をクリックします。

キーのインポート画面が表示されます。

[キーファイル：] のフィールドで、インストール時に作成したキーファイルを選択します。

※　初期設定の保存先フォルダ：C:¥Program Files¥WinMagic¥SecureDoc-NT¥UserData¥*****.dbk

キーファイルに設定されているパスワードを入力し、<ログイン> をクリックします。

[キーの選択：] で、鍵が表示されるので、それを選択し、<キーのインポート> をクリックします。

⑥　次の画面のように、鍵をインポートできたら、<完了> をクリックします。

⑦ [ブートコントロール] のプルダウンメニューから [ユーザー管理] を選択します。

次に、<ユーザーの追加> をクリックします。

⑧ 先に作成したキーファイルを選択します。

<ユーザー情報の入手> をクリックした後、<追加> をクリックします。

下の例では、ユーザー番号の 2 にユーザーが追加されています。

右上の X をクリックして、SecureDoc コントロールセンターを終了します。再起動し、追加したユーザーID でログインできることを確認してください。

SecureDoc インストール後の各設定項目などについては「SecureDoc for Windows Version 9.2 リファレンスマニュア ル」をご参照ください。